

● 三菱ふそうトラック・バス株式会社 様

ICカードを基軸にフィジカルセキュリティを強化

～ 今後は「情報セキュリティ」との連携で
セキュリティ環境のトータルな管理・運用も視野に ～

ダイムラーグループの一員として、アジアを中心とした海外マーケットに力を注ぐ三菱ふそうトラック・バス。同社では、2007年、主力の川崎工場におけるフィジカルセキュリティを大幅に強化した。非接触ICカードの社員証を基軸に、各種の自動ゲートとIP監視カメラなどを組み合わせた仕組みを導入。入退場記録はすべて厳格に管理している。これにより、一元的な監視体制を構築するとともに社員のセキュリティ意識の向上を実現。今後は、このセキュリティ基盤の上に、フィジカルセキュリティと情報セキュリティを融合していく考えだ。



三菱ふそうトラック・バス株式会社
生産本部
エンジン生産技術・技術管理部 工場管理課
課長
後藤 和康 氏

豊富な導入実績と ノウハウに安心感

高級車や商用車などの分野で世界をリードするダイムラーグループ。その一翼を担っているのが、三菱ふそうトラック・バス（以下、三菱ふそう）である。75年を超える歴史の中で培ってきたものづくりの技術をベースに、欧米流の経営手法を導入して、“和魂洋才”の精神で世界最高水準の商用車を提供している。

特に、小型トラック分野ではダイムラーグループにおける主軸であり、近年はアジアを中心に積極的な海外展開も行っている。

こうした事業展開を行う上で重要なテーマとなるのが、機密情報や顧客情報をはじめとするセキュリティである。しかしながら、商用車の開発・生産などを行う工場は広大であり、従業員の利便性をできるだけ維持しながらセキュリティを高めることは容易ではない。これまでは、多くの人手に頼るセキュリティサービスやアナログ監視カメラなどを利用してきた同社にとって、セキュリティの一層の強化が課題になっていた。

そこで同社では、守るべき設備や機器、情報などの重要度に合わせて、各エリアへの入退場を管理するセキュリティインフ

ラの構築を決断。導入パートナーの選考を開始した。

セキュリティは同社の根幹を担う重要なインフラとなるだけに、パートナーの選定は慎重に進められた。ソリューション内容はもちろん、システムの設計・構築に不可欠な技術力、継続的なパートナーシップのベースになる信頼感が、セキュリティベンダーには求められるからだ。

これらの要件を念頭に、三菱ふそうは5社のソリューション提案を検討し、最終的にNECネットエスアイを選定。社員証を兼ねたICカードを中核にした、統合セキュリティを導入した。

NECネットエスアイが選ばれた理由について、同社生産本部 エンジン生産技術・技術管理部 工場管理課 課長の後藤和康氏は「NECネットエスアイは、自社での運用実績以外にも、豊富な導入実績とノウハウがあることに安心感を覚えました。また、フィジカルセキュリティと情報セキュリティ両方の分野に強みを持っている点についても高く評価しました」と語る。

フィジカルセキュリティを導入後に、ICカードを基軸にした全社的な統合セキュリティを視野に入れる同社にとって、2つの分野を無理なく統合できる技術力を有するベンダーであることは、重要なポイントになったという。

複数のベンダーをまとめる プロマネ能力に高い評価

「ICカードによる入場者認証と柔軟な入場制限設定」「入退場履歴の蓄積と把握」「監視カメラ設置によるリアルタイムでの

状況の把握と検証の容易性向上」、そして「ICカード連携など将来の拡張性を見据えた構築が可能である事」などであった。

その構成要素は、約2万枚のICカード、カードリーダーや監視装置を含む入退管理システム、フラッパーゲート、車両ゲート、ロータゲート(写真1)、IPカメラ、IPインターフォン、来場者申請システムなど、多岐にわたる。複数のベンダーが提供する多種多様なハードウェアやソフトウェアを、ソリューションとしてまとめ上げるのがNECネットエスアイの役割である。

「社員証なども関係するため、このプロジェクトでは人事や総務といった他部門と密接に連携する必要がありました。NECネットエスアイの適切な助言によりプロジェクトチームを発足させ、社内部門間も含めた取りまとめの役割を果たしてもらいました」と後藤氏。続けて、「三菱ふそう社内だけでなく、このプロジェクトはIT・建築関連など様々な企業の協力体制が必要でしたが、それらを束ねるプロジェクトマネジメント能力が、NECネットエスアイの大きな強みだと思います」と評価する。

利便性と高セキュリティを両立 従業員のセキュリティ意識も向上

今回のソリューション導入によって、同社川崎工場におけるセキュリティは大幅に強化された。車両出入口には車両ゲートを設置、無人の出入口には共連れを防止するロータゲートが置かれ(写真1)、



ロータゲート(写真1)
無人となる門には共連れ防止を含めたセキュリティ強化のために、ロータゲートが導入された。各ゲートにはIPインターフォンとカードリーダー、監視カメラが設置されている。



24時間出入り可能な利便性と高いセキュリティを両立。一方、多くの従業員や来場者が通過する正門などには、風雨にも強い全天候型のフラッパーゲートを設置、さらにゲストカード回収機能を追加し、カード回収の自動化を実現した(写真2)。当時、屋外へのフラッパーゲート設置事例はほとんどなかったが、NECネットエスアイは導入実績を持っており、その経験が生かされた格好だ。

また、各種のゲートを来場者申請システムと連携させることで、入退場のログ分析が可能になった。それぞれのゲートにIP監視カメラを組み合わせ、センターでの一元的な監視ができるようになっている。

ICカードを軸に特定エリアへの出入りを制限したことにより、物理的なセキュリ

ティのレベルは大きく向上した。さらに、常にICカードを携行、利用する従業員のセキュリティ意識も高まっているという。

「入退ログはすべて記録され、簡単に管理レポートも出力できます。そのため、もし社員が誰かに社員証を貸して入場させるようなことがあれば、その社員は厳重注意を受けます。また、来訪客があるときは、社員が来場者申請システムで事前申請し、申請のあった来訪者のみが受付を通過できるようにしています」と後藤氏は話す。

セキュアプリントや勤怠管理など 様々なシステムとの連携を検討

「川崎工場に導入したソリューションは、今後他の工場にも展開する予定です。また、現在は工場敷地への入退管理のみを行っていますが、今後はエリアをさらに細かく分けて、建物単位・部屋単位でのセキュリティ管理を検討しています。さらに、ICカードの社員証を軸にして、紙出力のセキュリティを高めるセキュアプリントや、社員食堂等でのキャッシュレス精算、さらには勤怠管理との連携にも活用したいですね」と将来的な構想に目を向ける後藤氏。こうした観点からも、フィジカルセキュリティと情報セキュリティの両分野で豊富なノウハウを持つNECネットエスアイに対する後藤氏の期待は大きい。



全天候型フラッパーゲートと
ゲストカード回収Box(写真2)
入退場が多い門にはフラッパーゲートが設置された。この門では有人監視の体制がとられ、来訪者の受付も行っている。

USER PROFILE

三菱ふそうトラック・バス株式会社

所在地 〒212-0058 神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地12
設立 2003年1月6日
会長 江頭 啓輔
社長/CEO ハラルド・ブルストラー
在籍人数 約16,800人(連結)
資本金 200億円
事業内容 トラック・バス、産業エンジンなどの開発、設計、製造、売買、輸出入、その他取引業。

